

事務事業名		椿利活用推進事業		☒ 実施計画登載事業 ☐ 総合戦略登載事業	
政策体系	政策名	011 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間	
	施策名	012 地域特性を生かした農林業の振興			
	基本事業名	012 農業経営の安定支援		☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始 H27 年度～) ☒ 期間限定複数年度 【計画期間】 ↓ 27 年度～ 32 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
根拠法令				予算科目	
所属	部課名	農林水産部農林課		会計	款
	課長名	菅原 博幸		項	目
	係名	農政係	電話	27-3111	事業
	担当者	松川 伸一	内線	7121	
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)		市の花「椿」を生かしたまちづくりを進めるうえでは、関係団体の連携強化、椿を地域資源とする都市との交流推進、イベントの開催などが不可欠であり、これらの取組みを円滑に進め、将来的に椿を通じて地域コミュニティの再構築や本市の知名度・地域ブランド力の向上に資することを目的とする。 【活動内容】 ○「椿」を活用した地域振興の取組み 「椿」を核として、行政機関や市内外の事業者及び地域住民等との連携体制を構築しながら、地域振興の取組みを推進。 ○「椿」に対する認知度向上とコミュニティ再構築 まちの「椿」の現状把握や植樹、搾油搾油体験、椿に関する活動を行う団体・個人を集めたイベント等を企画・開催し、当市の地域資源である「椿」に対する市民の認知度や愛着感を高めるとともに「椿」を軸とするコミュニティの再構築を図る。		全体計画(※期間限定複数年度のみ) 総投入量(千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 46,549 事業費計(A) 46,549 人件費 正規職員従事人数 2 延べ業務時間 900 人件費計(B) 3,600 トータルコスト(A)+(B) 50,149	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

前年度実績(前年度に行った主な活動)

・椿を通じた市の知名度及び地域ブランド力の向上を図るため、椿利活用推進業務を委託実施した(椿利活用推進員の配置等)。

今年度計画(今年度計画している主な活動)

- ・遊休農地を中心とした椿苗木の植栽
- ・椿商品開発支援
- ・椿学習プログラムを活用した市内中学校での学習支援

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

・市内の椿

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

・椿実・椿葉・椿花の収穫量を増やす。

④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)

・椿の利活用による商品開発により、将来の産業化に弾みがつく。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)

名称	単位
ア 椿の植栽面積	アール
イ	
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)

名称	単位
カ 椿の植栽	本
キ	
ク	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)

名称	単位
サ 椿の実の収穫量	kg
シ	
ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

			年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(目標)	31年度(目標)	32年度(目標)
			単位						
投入量	事業費	財源内訳							
		国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円						
		地方債	千 円						
		その他	千 円						
		一般財源	千 円	8,064	8,976	8,509	7,000	7,000	7,000
		事業費計 (A)	千 円	8,064	8,976	8,509	7,000	7,000	7,000
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2
		延べ業務時間	時 間	150	150	150	150	150	150
		人件費計 (B)	千 円	600	600	600	600	600	600
トータルコスト(A)+(B)		千 円	8,664	9,576	9,109	7,600	7,600	7,600	
⑤活動指標		ア	アール	18	52	36	20	30	30
		イ							
		ウ							
⑥対象指標		カ	本	185	238	202	100	200	200
		キ							
		ク							
⑦成果指標		サ	kg	100	419	87	300	300	300
		シ							
		ス							

事務事業ID	1690	事務事業名	椿利活用推進事業
--------	------	-------	----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

震災後、復興支援として市と(株)資生堂は椿の産業化に向けて、「椿の里プロジェクト」を実施してきたが、今後の展開を検討する中で、事業実施体制の確立が課題となっていた。
課題解決のため、総務省の復興支援員制度を活用して地域の事業推進リーダーを配置することとした。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

平成27年度に椿利活用推進員1名を委嘱し、椿の資源量調査、マッピング作業を行った。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

椿を観光資源のほか、産業化に向けた利活用について市の取り組みが求められている。

2 評価の部(SEE)＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 当市では、「椿の里」をキャッチフレーズにしたまちづくりを推進しており、椿という資源を活用した観光振興及び産業振興に結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 当市では、「椿の里」をキャッチフレーズにしたまちづくりを推進しており、椿という資源を活用した観光振興及び産業振興を図るうえで市が関与する妥当性がある。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 本事業は、椿の利活用による商品開発、産業化であり、対象・意図ともに適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 遊休農地を中心に椿苗木の植栽に取り組んでいる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 遊休農地を中心とした椿苗木の植栽や椿商品開発支援、椿学習プログラムを活用した市内中学校での学習支援活動等に支障をきたす。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 委託料については、毎月、実績に基づいた精算手続きを行っており、事業費を削減できる余地はない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 業務のほとんどは、委嘱した椿利活用推進員が行っており、職員が行う事務は限定されていることから、人件費を削減できる余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 本事業による受益者は市民であり、公平・公正である。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性

- ① 現状維持
- 2 改革改善(縮小・統合含む)
- 3 終了・廃止・休止

(2) 改革・改善による期待成果

左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。
(終了・廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		●	×
	低下		×	×

(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等

4 課長等意見

(1) 今後の方向性

- ① 現状維持
- 2 改革改善(縮小・統合含む)
- 3 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

椿の実の産地化を図っていく上で、まだ、椿の絶対数が不足している現状にあるため、植樹について継続していく必要がある。